

静岡県農業共済組合 (NOSAI静岡)

1 静岡県の概要

静岡県は、日本のほぼ中央に位置しています。太平洋に面して東西に広がっており、8都府県にまたがる東海道新幹線の計17駅のうち、6駅が静岡県にあります。

全般的に温暖な気候で、平地ではほとんど降雪がありません。北に日本一高い富士山、南に日本一深い駿河湾を有し、日本一の湧水量を誇る柿田川や、淡水と海水が入り交じる浜名湖など、多様性に富んだ自然環境です。

食文化や地形・地質など、東日本と西日本の様々な境界線が存在するのも静岡の特徴です。例えば、電気の周波数は東西で異なりますが、静岡県内にある富士川を境に東が50Hz、西が60Hzとなっています。

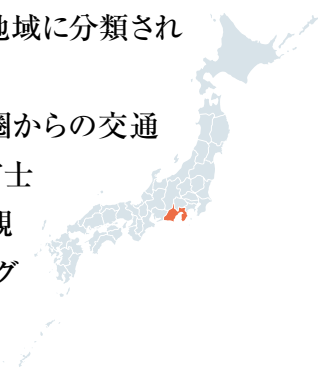
県内は旧国名で伊豆国、駿河国、遠江国という三つの国から成り立っており、現在はそれぞれ

東部、中部、西部と3地域に分類されます。

東部地域は、首都圏からの交通アクセスが良好で、富士山や伊豆半島などの観光地があります。B級グルメの「富士宮やきそば」も有名です。

中部地域は、富士山静岡空港や清水港、東名・新東名高速道路など、世界や日本各地への交通インフラに恵まれています。「静岡おでん」や「安倍川もち」などの名産があります。

西部地域は、自動車や楽器などの製造業が盛んな地域で、多くの創業者や研究者を輩出しています。消費量トップクラスの「浜松ぎょうざ」が話題となっています。



2 静岡県の農業

茶、みかん、わさびは、静岡県を代表する農産物です。

茶の有名産地は県内各地にあります。産地ごとに味わいや香りが異なるブランド茶が生産されています。生産量はこれまで全国1位でしたが、2019年は生産量2位だった鹿児島と逆転して2位となり、シェアは約30%となります。今後、生産技術とともに品質を高め、静岡茶の価値を向上させていくことが期待されています。

みかんの生産量は全国3位で、シェアは約15%です。産地は県内各地にあり、各地のみかんがそれぞれ、骨の健康維持に有効とされる「β-クリプトキサンチン」や高血圧の改善効果が期待される「GABA」を含有する機能性表示食品として

登録されています。

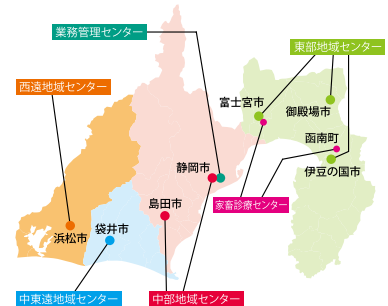
わさびは静岡県が栽培発祥の地であり、全国シェア約80%、生産量1位、東部や中部で主に生産されています。根と茎を細かく刻み、酒粕に漬けた「わさび漬け」が加工品として全国に知られています。

また、芳醇な香りと美しい網目の高品質な温室メロン、「紅ほっぺ」「章姫」「きらび香」などの品種が静岡で生まれたいちごのほか、全国1位で約40%のシェアをもつガーベラや、全国2位のばらなどの花きの施設園芸もさかんに行われています。

さらに、富士山麓を中心に酪農地帯が広がっており、生乳の地域ブランド化を目指すとともに、銘柄牛や銘柄豚の開発もすすめられています。

3 静岡県農業共済組合 (NOSAI静岡) の概要

- 所在地: (業務管理センター) 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目15-13
- 電話番号: 054-251-3511 (代表)
- 理事: 14名
- 監事: 3名
- 職員数: 122名 (2021年3月末現在)



4 静岡県農業共済組合 (NOSAI静岡) の活動

農業保険制度は、「農業共済制度」と「収入保険制度」からなる国の制度です。自然災害や不慮の事故、価格低下などにより農業者が受ける損失を補てんし、農業経営の安定と農業生産の継続と発展を目的としており、農業災害対策の重要な柱となっています。

2021年1月、県内3つの農業共済組合と連合会がひとつとなり、「静岡県農業共済組合 (NOSAI静岡)」が発足しました。これまでの組合を「地域センター」と改称し、県内に4つの地域センターを配置しました。また連合会は、業務管理センターと改称し、地域センターをサポートしています。

新しいNOSAI静岡の発足に伴い、Webサイトを刷新し、「のうさいChannel」を開設しました。

Webサイトは、わかりやすく親しみやすいコンテンツ構成を意識し、季節に応じて更新する、静岡らしい農風景を描いたイラストをトップページに配置しています。

「のうさいChannel」では、Twitter、Facebook、Instagram、LINE、YouTube、農業共済新聞などの様々なメディアを通じて「農業者との新しい繋がり」をつくることを目的に、収入保険加入者の声の動画配信などの情報発信をしています。



WebサイトURL: <https://www.nosai-shizuoka.or.jp/>

